

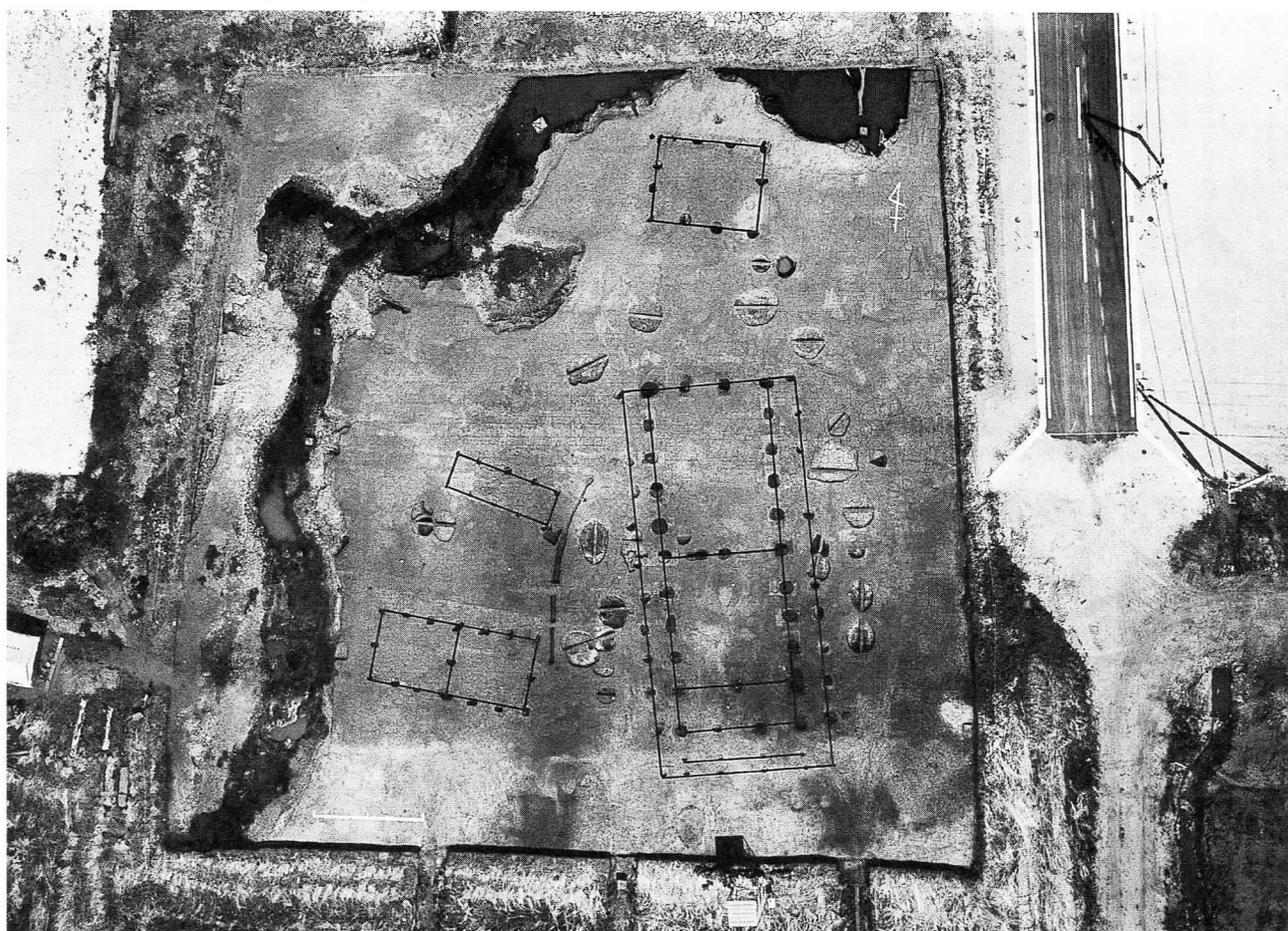
平成12年 2月

米沢市文化財年報

No. 12

文化財愛護シンボルマーク

米沢市教育委員会



古志田東遺跡主要遺構全景（空中写真）

埋 蔵 文 化 財

平成11年度に、埋蔵文化財に係わる調査依頼を受けたのは、分布調査31件、立会調査8件、試掘調査36件であった。このうち緊急発掘調査の対象として記録保存を実施した遺跡には、台ノ上遺跡、横山古墳、脇の沢遺跡、古志田東遺跡の4件である。他に学術調査として大浦B遺跡を実施している。この内今年度、特に成果が注目された古志田東遺跡について概括する。

古志田東遺跡「林泉寺三丁目地内」

当遺跡は、米沢盆地の南西に位置し古志田地内（新住居表示により現在は林泉寺三丁目地内）標高約260mの水田地帯に所在する。宅地造成工事に伴う緊急発掘調査として実施したもので、調査面積は約4,300m²である。検出された遺構には、掘立建物跡7棟と河川跡・土壇・井戸跡・溝跡等があり、遺跡は東西85m×南北90m（約7,600m²）の範囲に遺存している。

掘立建物跡（BY1）は、桁行10間（南北24.4m）×梁行3間（東西8.4m）に北側を除く3面庇を伴う大型建物跡で、庇を含めた建物総面積は約320m²（約97坪）を呈し、平安時代の建物跡としては大規模な面積を有することから母屋的存在と推測される。この建物跡の周辺を取り囲み、倉庫跡（BY3）や厩建物跡（BY4）と推測される建物群等を含め他に6棟確認された。

河川跡（KY1）は、南側から北東方向に蛇行しながら延び、幅10m前後、深さは0.8m～1.2mを測る。トレンチ調査により長さ約200mまで確認しており、BY3南西側付近の東側と対岸の西側で、略楕円形状の入り江状の張出し部分があることから船着場と推測している。

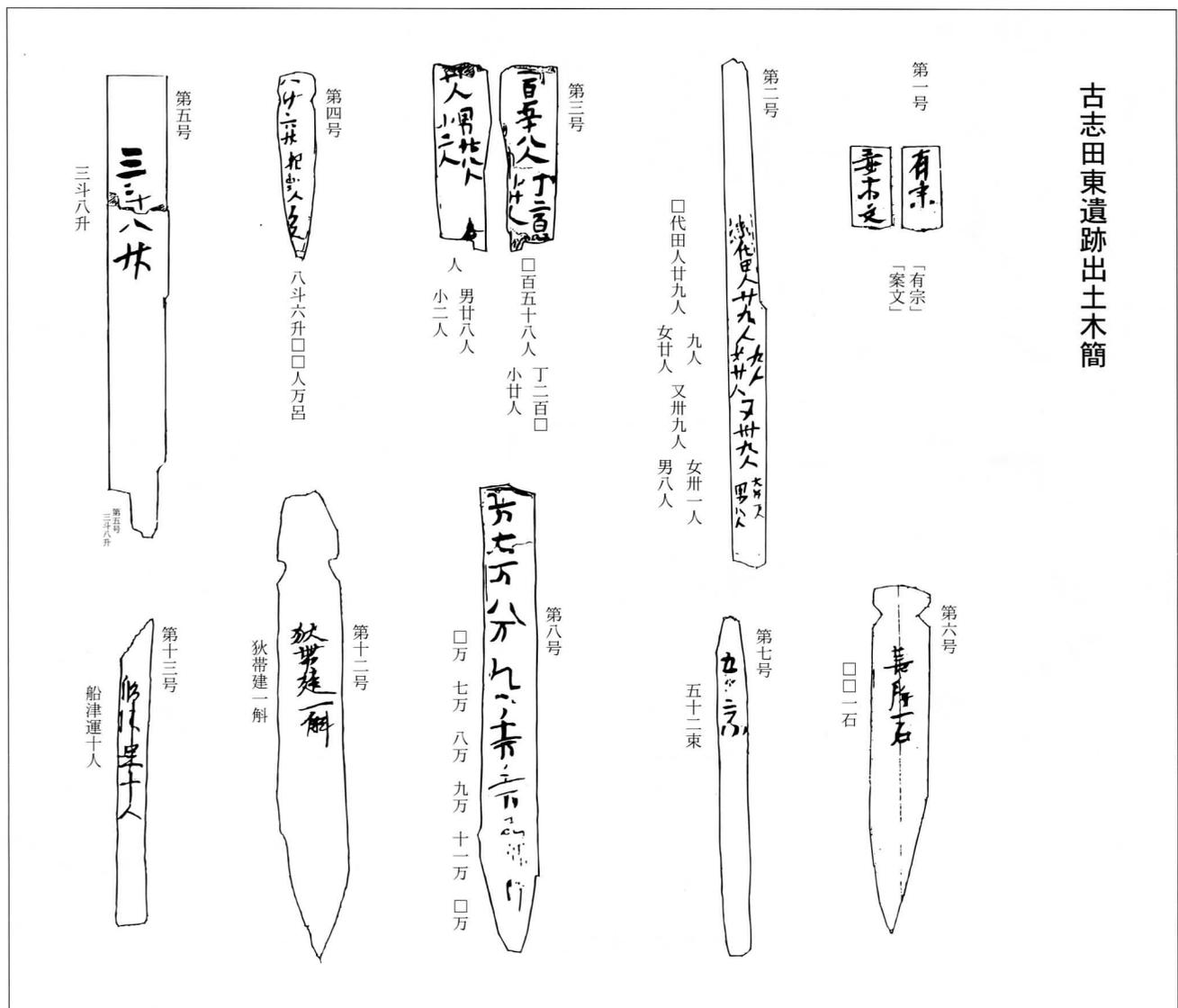
遺物の大半は河川跡からの出土で、土器、木製品等があり整理箱に約100箱を数える。土器には土師器・須恵器・赤焼土器（坏・壺・甕）、木製品では木簡・木椀・木盤・曲げ物・物差し・櫛・檜扇・舞鑽・独楽・ホーク・鋏・弓・釘状木製品・鐙・修羅等がある。土器は赤焼土器が殆どで、底部がやや小さく器高が高い特徴から9世紀中葉～10世紀初頭と考えられる。墨跡が認められる墨書土器は400点余りを数えるが、現段階で判明した墨書内容は「山田」「山田西」「千万」「吉」「王」「木」「雲」「束」「達」「布」等や、呪術的な文様墨書が約30点ある。

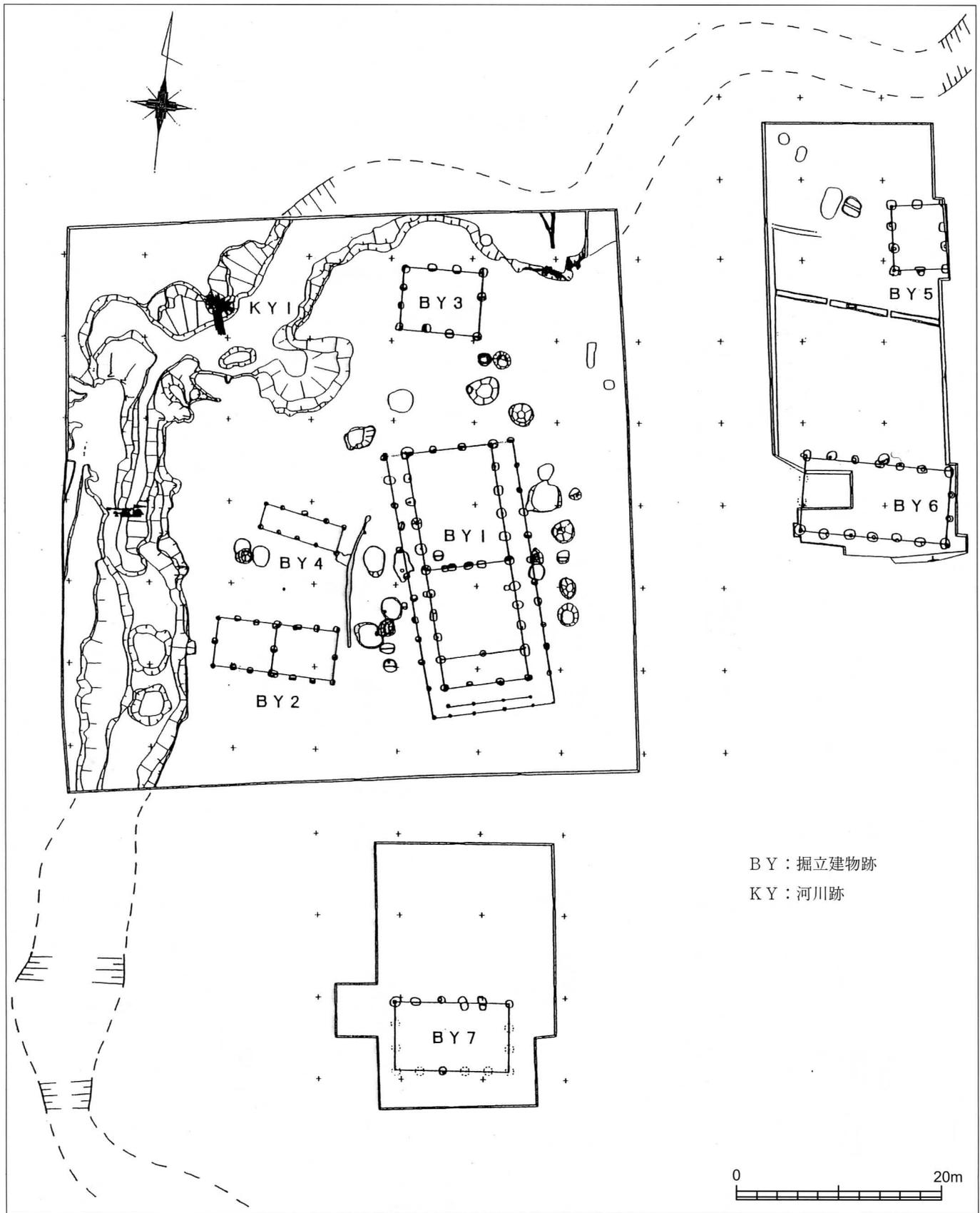
木簡は28本確認されているが判読できたものは13点である。木簡の積文は、平川 南教授によるものである（別紙参照）。出土木簡を総括すると、第一号は、本遺跡における文書業務が、恒常的に実施されていたことを示す。第二号、第三号木簡は、本遺跡が在地有力者層の拠点として、多数の労働力徴発を行っていたことを物語る。その労働内容は「田人」と女性労働者に象徴される農業経営と、258人にも及ぶ男性労働力の動員による何らかの大規模事業などが想定できる。第七号は、最近報告された古代稲作史上の極めて重要な資料とされる、稲の品種名を記した「種子札」として、新たな例をまた一つ加えることができた。本遺跡は、古代置賜郡内の有力者層に関わる居館跡と考えられる。そして本遺跡は大規模な農業経営を行い、独立した行政機能をも備えた施設であることを、十数点の木簡は如実に物語っている。

修羅は、丸太を縦に半裁し加工したもので6本出土し、完形の1本は長径2.77m、幅20cm、厚さ11cmを測る。先端部を尖状に整形しており3箇所ほぞ穴がある。ほぞ穴は概ね縦幅が10cm、横幅17cmを測る。鐙は、黒漆で彩色した鐙であり現長20cmを測る。漆を施した出土品としては県内唯一のものである。物差しは破片である

が、残存の長さ9.5cm、幅1.5cm を測り、両側に2種類の尺度が刻まれている。宮本長二郎教授によれば、片側目盛が高麗尺とみられる1寸(3.5cm)、もう一方は唐尺とみられる1寸(3.12cm)となる尺度であることが判明した。

総括すると本遺跡は、蛇行する河川の段丘上に沿って、大型建物跡を中心に7棟の建物が確認された。特に3面庇を有する大型建物跡に関しては、遺跡の中核機能をもった母屋的存在と推測され、県内の古代建物跡では最大級の規模を有する。遺物では木簡13点をはじめ、多様な木製品と約5,000点に及ぶ土器群が河川跡から出土している。注目される木製品として、鏡・修羅・物差し等が挙げられるが、鏡の黒漆加工を施したもので、漆を用いたものは県内初の発見である。修羅に関する古代のものは全国的にも類例は少なく、3単位のほぞ穴は横木を通して組み合わせる構造と推測され、いわゆる「ソリ」に近い形態と判断される。大掛かりな運搬を目的に使用した道具とみられる。大半の土器は完形に近い状況で出土したことから、祭祀に使用後、一括廃棄されたものと推測される。遺跡の性格は既に木簡で示すように、多くの労働力を集約できた有力豪族の姿が窺える。大規模な集落を建立し、多様な木器類で示すように高度な技法を有していた。9世紀後半は律令社会が衰退し地方の豪族や有力者層が台頭し支配権力を拡大する過渡期にあたり、この遺跡はその時代を象徴するものと考えられ、東北古代史を解明する上で極めて重要な遺跡と云える。





古志田東遺跡遺構全体図

山形県指定天然記念物

山上の大クワ



この地は、以前南置賜郡山上村であったことから、そこに生育しているクワの大木ということで「山上の大クワ」と名付けられた。昭和30年8月1日、山形県指定天然記念物に指定されたもので、根周り5m、地上1.2mでの幹周り10mで、樹齢600年と推定される。

猿害によりほとんど芽吹きがなく、しかも表皮の多くが食害の痕跡を示していることから、一時的な食害ではなく、周期的に襲来していたと思われる。桑の正常段階を100とした場合の全体の2%しか芽吹きしていなかった（5月段階）。

入梅前に活力剤を根の周りに散布した結果、30%までに回復を示した。

来年度は県の補助を得て、(1)猿害対策 (2)活力剤の散布 (3)管理保存を実施する予定である。

史跡 米沢藩主上杉家墓所保存修復事業

初代藩主 景勝廟

保存修理工事



国庫、県費、市費を導入した補助事業として実施。破損状況……建物は柱の不同沈下及び傾斜が著しく外部から支えの柱及び筋違いを取り付けて建物の倒壊を防いでいる。

軒下のコンクリートは、建物が沈下したため亀裂が進行している。

屋根銅板葺きは、経年による破損が進行し、一部雨漏りが生じている。背面基壇の石積は一部割れや風触がみられ、沈下や孕み出しも認められる。修復内容……建物は破損が著しいため全解体とした。建具類、造作、彫刻等は十分な養生を施した上で運搬し修復を行った。

基壇の石積については、雨落葛石は解体し、土台下の柱基礎はコンクリート地業を施して据え直した。雨落内にモルタル塗を施した。

廟屋及び廟屋前の門は銅板一文字葺とした。

報告書紹介

米沢市教育委員会では、埋蔵文化財及び一般文化財の調査成果をまとめた、報告書を作成しておりますので紹介します。

【埋蔵文化財調査報告書】 欠番は在庫なし

○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 (水神前・柿の木・ニタ俣B各遺跡)	第6集	¥4,000
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 (八幡堂・ニタ俣A各遺跡)	第8集	¥4,950
○『左沢遺跡発掘調査報告書』	第11集	¥1,500
○『法将寺遺跡発掘調査報告書』	第12集	¥1,040
○『白旗遺跡発掘調査報告書』	第13集	¥ 500
○『石垣町遺跡発掘調査報告書』	第16集	¥ 800
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』(大清水遺跡)	第17集	¥3,700
○『大浦A・C遺跡発掘調査報告書』	第18集	非売品
○『三の丸・生蓮寺遺跡発掘調査報告書』	第19集	¥1,170
○『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』	第21集	¥ 950
○『遺跡詳細分布調査報告書』第1集	第23集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第2集	第25集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第3集	第27集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第4集	第28集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第5集	第32集	非売品
○『大浦C遺跡発掘調査報告書』	第33集	非売品
○『上新田A遺跡発掘調査報告書』第1集	第34集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第2集	第35集	非売品
○『大浦B遺跡発掘調査報告書』	第36集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第6集	第37集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第3集	第38集	非売品
○『上新田A遺跡発掘調査報告書』第2集	第39集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第4集	第40集	非売品
○『矢子山城跡調査報告書』第1集	第41集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第7集	第42集	非売品
○『塔ノ原遺跡発掘調査報告書』	第43集	¥1,200
○『米沢城跡発掘調査報告書』	第44集	¥1,300
○『直江石堤 谷地河原堤防測量調査報告書』	第45集	¥ 400
○『窪平遺跡第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書』	第46集	¥1,300
○『遺跡詳細分布調査報告書』第8集	第47集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第5集	第48集	非売品
○『矢子山城跡調査報告書』第2集	第49集	非売品
○『我妻館跡発掘調査報告書』	第50集	¥1,400
○『直江石堤発掘調査報告書』第2集	第51集	¥3,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第9集	第52集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査報告書』	第53集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第10集	第54集	非売品
○『台ノ上遺跡発掘調査報告書』	第55集	非売品
○『金ヶ崎A遺跡発掘調査報告書』	第56集	¥1,280
○『大神窯跡』	第57集	¥2,830
○『東屋敷館跡発掘調査報告書』	第58集	¥1,390
○『大浦A遺跡発掘調査報告書』	第59集	¥ 990
○『米沢遺跡地図』	第60集	¥7,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第11集	第61集	非売品
○『大樽遺跡第2・3次発掘調査報告書』	第62集	¥2,600
○『上谷地D遺跡発掘調査報告書』	第63集	¥ 800
○『丸山日陰館跡発掘調査報告書』	第64集	¥1,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第12集	第65集	非売品

【一般文化財調査報告書】 以下在庫なし

- 『米沢の民家』
- 『米沢の仏像』
- 『米沢の神社・小祠・石造物』
- 『南原地区芳泉町』
- 『置賜の登拝習俗用具及び行屋調査報告書』

平成11年度文化財関係事業

文化財の現状調査と基礎資料の整備

- ・「白猿」「白鳥」「ホタル」等調査
- ・天然記念物「カモシカ」の保護

保存管理の充実

〔管理補助事業〕

- ・「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院・羽黒神社)
- ・「史跡 米沢藩主上杉家墓所」管理補助事業
- ・「史跡 米沢藩主上杉家墓所」保存修理補助
- ・国宝紙本金地著色洛中洛外図保存修理事業
- ・県指定天然記念物「山上の大クワ」保存対策事業
- ・指定文化財の説明板整備

全国史跡整備市町村協議会との連携

後継者育成の促進

- ・万世梓山獅子踊保存会への補助

埋蔵文化財の保護・啓発

- ・第11回埋蔵文化財展「米沢城跡の発掘と成果」
- ・開発事業に伴う緊急発掘調査の実施
- ・古志田東遺跡発掘調査等

博物館展示事業

- ・館藏品展
- ・平成11年5月6日から平成13年新博物館オープンまでの間、準備のため休館

新博物館建設事業

新博物館開設準備事業

発行 米沢市教育委員会
〒992-0012 米沢市金池三丁目1-55
(担当 文化課文化財係)
TEL 0238-22-5111